

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2010年9月下旬から11月上旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月下旬は、低位水準であるが、来遊量は徐々に増加する。10月上旬～中旬は中位水準となる。10月中旬から減少を始め、10月下旬は低位水準となる。
- (2) 漁場：9月下旬の主漁場は、引き続き沖合であるが、落石～厚岸沖にも断続的に漁場が形成される。10月上旬は、釧路沖まで漁場が広がり、襟裳岬沖にも断続的に漁場が形成される。10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、厚岸～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：10月中旬は断続的ではあるが来遊があり、来遊量はゆるやかに増加する。10月下旬は低位水準であるが増加し、11月上旬には中位水準となる。
- (2) 漁場：10月中旬になると、断続的に漁場が形成される可能性がある。10月下旬は三陸北部に漁場が形成され、11月上旬は北部～南部の広範囲に漁場が形成される。

※常磐海域の予報については、9月29日発表から行います。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	落石～厚岸沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向			断続的	低位増加	中位増加
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年をかなり下回り、低位水準であった。過去 20 年間で最も来遊量が少なかった。

(2) 漁場

道東海域よりも沖の花咲港東北東～東南東沖が主漁場であり、道東海域では漁場は形成されなかった。

(3) 魚体

花咲港東北東～東南東沖における漁獲物は、31cm モードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.5～2 割程度。体重 150g 台が主体。